

令和5年度 ゆずり葉こども園 事業報告

1, 概要

①運営報告

- 令和4年度1月より老朽化に伴い、園舎の建て替え工事がスタートし、園児や保護者、近隣の方、職員の安全を確保しながら、工事を進めました。地中障害の影響もあり予定でしたが、無事11月末に第一期工事が終了し、新しい環境へ移動し職員・園児・保護者が安心して利用できるようになりました。引き続き、旧園舎を解体し、2期工事を開始し、令和6年4月末に全ての工事が完了します。
- 守口市においては、今年度初めての待機児童が出たことにより、各園に積極的な受け入れ要請がありました。当園も、定員以上の申し込み希望者がありましたが、最低基準職員の確保が難しいことから、0歳児は3名マイナスの状況からスタートしました。年度途中にも職員体制を整え、定員を確保して運営したいと思います。
- 職員採用については、困難な状況が続いています。3月末の正規職員の入れ替えはありませんが、令和6年度より、園舎建て替えに伴い認可定員数に変更となり、職員の増員が必要となります。
- 人材育成については中堅職員に指導力不足があり、職員が育ちにくい現状にあります。人材育成に向けて、法人本部内・外部への研修やマニュアル作りを行い、保育の基礎からの見直しを行いました。
- 地域において支援を必要とする子どもが多く、各子どもへの保育・保護者に対する育児支援が必要と感じます。継続的な支援を行い、子どもや保護者が安心して通える園となる様にします。

②利用定員 111名

利用児童数	1号認定児	3名(定員 3名)		
	2号認定児	68名(定員 69名)		
	3号認定児	38名(定員 39名)	合計	109名

③事業日数 293日(日曜、祝日及び12月29日から1月3日は休園とします)

④開園時間 平日・土曜日 7:30~19:00

⑤保育時間 ★2号認定児

平日	土曜日	早朝保育	7:30~8:30	
		通常保育	8:30~16:30	
		延長保育	保育短時間児	16:30~19:00
			保育標準時間児	18:30~19:00

★1号認定児

平日 早朝保育	7:30~8:30
通常保育	8:30~13:30
延長保育	13:30~19:00

- ⑥職員数 園長1名、主幹保育教諭2名、保育教諭16名（うち非常勤6名）
看護師1名、子育て支援員4名 保育補助2名、
学校内科医1名（年2回検診実施）、学校歯科医1名（年2回検診実施）
学校薬剤師1名（年2回検査実施）
給食委託事業者からの栄養士1名 調理員3名

2. 教育・保育運営

①教育・保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、励まし合い、学び合う子ども社会の中で成長することが望ましいと考えます。
- 私たちは子どもの個性、人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

②教育・保育方針

- 社会福祉法人 白鳩会 保育メソッド・1日の保育の流れを中心に、子ども達が生き生きと生活・活動できる環境を整え、自己を十分発揮し、人として「生きる力」を育む。
- 在園児および地域の子育ての支援を行う。
- 愛着関係を確立させ、子どもとの継続的な信頼関係を築く。

③教育・保育目標

- 乳幼児の愛着関係を基盤とし、認知能力（記憶、計算、判断、決定、言語理解など）と非認知能力（意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、思いやり、自己肯定感）を育む。

④クラス編成および職員配置

0歳児 ひよこ組	7名	保育教諭2名	乳児フリー1名
1歳児 あひる組	13名	保育教諭2名	乳児フリー1名
2歳児 もも組	18名	保育教諭3名	
3歳児 あか組	24名	（1号認定児 1名）	保育教諭 2名
4歳児 き組	24名	（1号認定児 1名）	保育教諭 2名 幼児フリー1名
5歳児 あお組	23名	（1号認定児 1名）	保育教諭 2名
合計園児数	109名	（1号認定児 3名）	保育教諭 16名

⑤教育・保育内容

- 育児担当制、少人数のグループ保育での活動を行う中で、乳児保育においては1人ひとり丁寧に愛情を持った保育を心掛けていました。派遣・パート共に子どもとの保育よりも作業的な動きに重点を置く保育士も多くいました。幼児クラスは特に落ち着かない子どもが多くいる為、「一日の保育の流れ」を見直して、チェックリストを利用して職員の動きを再構築する課題が残りました。
- 子ども達が考えて行動出来るように、保育士があまり口を出さず子どもが考えて行動出来る保育を目指しましたが、保育士の指示や静止が多く、子ども達も縛られている感覚で、全体が落ち着かない結果となっています。
- 園庭の建て替え工事が始まり、活動スペースが狭くなってしまいましたが、登園後の「朝の意味ある運動」や近くの公園利用を行うことで運動能力の低下と自分で身を守るすべを学ぶことが出来ました。クラスによって毎日、欠かさず継続して取り組むことの課題が残りました。
- 行事や季節ならではの活動においては、出来るだけ中止ではなく、どうすれば出来るかを考え、プール遊び・流しソーメン・秋祭り・野菜の栽培（プランター使用）子ども達の興味・関心・体験を意識しました。家庭では経験できない体験を通して五感を刺激し、思い出と経験を心に残すことが出来ました。
- 一日の生活リズムが崩れてしまっている子どもが多いため、「早寝・早起き・朝ごはん」を推奨し、睡眠をとること、朝食をとることの大切さ、社会的なルールである登園時間の重要性、規則正しい生活を推奨しましたが、保護者より改善が必要だと感じています。

⑥家庭との連携

- カリキュラムや乳児連絡ノートについては「Child Care Web」の様式で合理的に作成できるようにしました。
- 例年5月のクラス懇談会を個人懇談会へと切り替えたことで、担任への理解と保護者の育児不安を聞き取り、コミュニケーション良く保護者支援が出来るようにしました。
- 配慮の必要な子どもについて、職員会議やケース会議を持ち、包括支援センター（あえる）や家庭児童相談所と連携を図り、子育て支援・保護者支援を行いました。又、療育機関とも連携をとり、見学を行い、個々への配慮を話し合いました。
- 今年度は保護者の子どもに対するネグレクトや心身の虐待ケースなど、要保護児童の件数が増えました。モニタリングを定期的に行い、園全体で情報を共有し、子どもの安全を守ることを確認しました。

⑦人材育成

- 研修計画に基づいた研修に参加し、キャリアアップ研修では、対面の研修を選択し、積極的に参加しました。次年度も、積極的に研修に参加しました。
- 正規職員・非常勤職員も含めて、仕事に対する姿勢や意識の向上を保育に取り組むことを目的として、職員同士のミーティングを増やしました。

⑧地域の実態に応じた事業

- 地域交流を考え行事への参加を募るポスターなどを守口市役所子ども施設課「あえる」においていただき、同時に園の掲示板に掲示し、地域の未就園児や保護者に発信しました。
- 普段、使用している児童公園やよつば未来公園にお散歩にいき、ごみ清掃や草引きを行い、老人会の方々と共に地域の清掃活動に参加しました。その後、ネットワークが広がり、地域のデイサービスセンターへ呼んでいただき、歌や制作などを楽しみ、高齢者との交流イベントを楽しみました。
- 中学生や高校生、学生の職業体験や実習の受け入れを積極的に行いました。職業体験を通して、仕事へ興味を持ち社会へと繋がるきっかけとなり、子ども達も身近な大人との交流に繋がりました。
- 年長児が入学する近隣小学校に出掛け、学校見学を行いました。学校への興味や関心を教師や在校生に聞ける機会を通して小学校への興味が湧き、嬉しそうな顔で質問する姿が見られました。

⑨苦情解決

- 第三者委員2名を設置し苦情解決の苦情受付担当者を主幹保育教諭、責任者を園長として苦情解決に対応していますが、苦情解決システムについてガイドブック・重要事項説明書、掲示板への張り出しにより、保護者に周知しました。
- 保護者から頂いたご意見についての回答書はコネクトにて保護者へ周知しました。保護者からの意見については「保護者からのご意見」にまとめ、記録に残しました。

⑩リスクマネジメント

- 毎月1回の避難訓練（地震、火災）の実施と消防署と連携を取り年2回の総合訓練を行いました。
- 看護師が中心となり、年間2回感染症や嘔吐処理方法の研修、日本赤十字社の研修を通してSIDSへの対応、心肺蘇生法、AEDの使用法や手順の研修を受け、救命措置と救護方法を学びました。
- 「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」の改訂に準じて見直された食物アレルギーの対応について、アレルギー事故に関する対応や、毎月給食職員とアレルギー児のメニューを含めた会議を行うことでヒューマンエラーからの誤食を防ぐ取り組

みを行いました。

- 備蓄品リストを基に、備蓄品の点検を毎月1回行いました。今年度は保存水が賞味期限を迎えた為、給食室にてお茶に交換してもらいました。備蓄について、子ども達にも伝え保存食があること、どれくらいあるのかなど話をしました。

⑪工事等修繕の実績

園舎建て替え工事	566,500,000円
----------	--------------